

明治八年

學校ノ沿革

紀元二千五百三十六年即チ明治八年此年本校  
所務中其更革釐正ニ渉ルモノ之ヲ一昨七年ニ  
比スルニ殆ト相均シトス是レ生徒ノ學業進捗  
スルニ隨ヒ其時ニ適セル方法ヲ設ケサン可カ  
ラサルニ因リ年々歳々更革釐正スルモノ無キ  
能ハス仍テ今其大要ヲ左ニ掲ケ以テ校務ノ沿  
革ヲ誌ルス

二月八日工業學教授英國人ジョンストン氏病  
死ス○十三日此日ヨリ英語學校生徒ノ治療ヲ  
本校医員ヨリ兼務ス○十八日此日ヨリ廿八日  
ニ至ル十日間外國教授ニ休暇ヲ与フ蓋シ天花  
痘ノ行ハル轉々熾ナルヲ以テ之ヲ預防セン為

東京明治八年



ナリ此日鑛山寮ヨリ輸送スル所ノ肥前国高嶋  
産石炭及陸中国関伊郡産鉄鑛數種ヲ文部省ヨ  
リ致セリ是レ曾テ内國礦物ヲ蒐集セシマシ  
言シアルニ因レリ○廿七日生徒ニ賞典ヲ与フ  
ルヲ止ム○三十日月給五十圓以内ノ雇人ヲ適  
宜採用スルノ許可ヲ得タリ○二月十二日米國  
人アリシヲ豫科教授トス○十五日米國人クラ  
ーヲ滿期校ヲ去ル○十六日米國人マシロー  
金石地質學教授トス○廿日文部省令シテ五十  
圓以内ノ謝儀ヲ外國教員ニ与ヘ又官費生ニ退  
學ヲ命ズルニ二項ヲ本校ニ委任セリ○廿九日製  
煉所落成ス前月經始スル所ナリ是レ化學生徒  
ノ學業日ニ進歩シ其試驗藥ヲ用ユル倍多キヲ

以ラ之ツ海外ヨリ輸入スレハ藥價極メテ不廉  
ナルニ因リ教場需用ノ諸藥ハ之ヲ製造シ漸  
以テ購入品ヲ減省セシメ為ナリ○三月九日製作  
學教場製品サンプルニ部六十種試藥ニ部四十  
九種器械ニ部二十六種及消防機其他ノ器具數  
箇ヲ京都府博覽會ニ出ス○十七日文部省令シ  
テ官費生規則ヲ廢シ更ニ貸費生規則ヲ立ツ○  
四月一日此日諸藝學文學教授外國人フアンテ  
滿期校ヲ去ル○廿三日文部省令シテ外國教授  
ノ家族ヲ臨時雇入ルハ時ハ日給ヲ以ラセシム  
○三十一日官費生ヲ罷ム○五月一日此日官  
費生中其家貧困シテ學資支給シ難キヲ以テ  
貸費ヲ願フモノニ貸費ヲ許ス尋テ又自費修業



未詳有之

規

能ハカルモノニナシ人ヲ賞賈生トス○十日文  
部省海外留学志願ノモノヲ一時本校ニ入学セ  
ルメ其学カヲ試験スルヲ全國ニ布令ス○十  
四日本卿文部省管地内旧天文学教場ヲ請フテ  
牛徒脚氣病院ハス○十五日仏國人マンジョウ  
来港ス以テ数学教授トス○六月三日此日ヨリ  
補助金ヲ以テ新聞紙ヲ購求シ縦覧室ニ置キ○  
八日製作学教場製作物理学器械廿三種ヲ文部  
省ニ呈ス此日学校長畠山義成少督学ニ任ス学  
校長元ノ如シ○十日夏期休業ノ日数ヲ増シテ  
七月十一日ヨリ九月十日ニ至ルニヶ月間トス○  
十一日此日ヨリ監事文番宿直校務ヲ取ル先是  
学校長心得晝夜在校セシヲ以テ監事ノ宿直ヲ

要ス於是学校長心得下宿セシヲ以テナリ○  
十五日始メテ教授補ノ職ヲ置ク○廿四日  
人シイポルト氏自筆ノ日本國及琉球國地圖  
國ペールトルブルム地圖書部省ニ呈ス是  
日幕徳川氏時同氏ヨリ没収ス所ナリ○  
七月二日学校長心得濱尾新学校長任ス此日  
丰等侍医伊東方成ノ病舎ニ来診スルヲ止ム是  
レ前年八月ヨリ毎月六回出張シテ生徒ノ病患  
ヲ治療セシニ因レリ○七日文部省令ニテ外国  
教授満期解約ニ際シ代更搜索中一時助力トシ  
テ雇入ルモノハ日給ヲ以テ○十五日  
文部省令ニテ諸藝学ヲ物理学ニ鑛山学ヲ化学  
ニ換ヘシム○十八日法学生徒三浦和夫山村寿

概



太郎兼池武夫齊藤脩一郎化学生徒松井直吉長  
谷川芳之助南詔球吾工学生徒平井晴二郎京口  
要ヲ米國ニ諸藝学生徒古市公威ヲ仁岡ニ鑛山  
学生徒安東清人ヲ独逸國ニ留學セシム是レヲ  
我國專門學校生徒ノ海外ニ留學スルノ權輿ト  
ス○十九日冬夏休業間外國教授生徒ヲ携ヘ内  
地ニ行旅シ實地ニ就テ教授スルモノニ木石草  
花ヲ採集シ及之ヲ運送シ又其旅中ノ費トシテ  
一日金五圓ヲ交付スルノ許可ヲ得尋テ生徒ノ  
教授ニ隨ヘ行旅スルモノモ亦一日金一圓ヲ旅  
費トシテ貸付スルノ許シヲ得タリ此二項ハ曾  
テ上請シアルモノナリ○廿日化学局落成ス前  
月廿二日經始スル所ナリ是レ逐日生徒進歩ス

ルニ因リ別ニ一局ヲ設リルニ非レハ其授業ヲ  
為ス能ハサルヲ以テ之ヲ棄ク○廿四日金石地  
質學教授マンロー生徒三名ヲ携ヘ九州ノ鑛山  
ヲ巡リ實地ニ就テ之ヲ教授シ魚ヲ礦物ヲ採集  
ス見レヲ本校教授ノ生徒ヲ率ヘ内地ヲ巡廻ス  
ルノ始メトス○八月三日外國教授雇入條約書  
ヲ改正シ之ヲ印刷ス○九日處務規則權限定マ  
ル○十五日日本即文部省管地内生徒脚氣病舎ヲ  
同地内東京医學校病舎ト交換ス○九月七日本  
年七月ヨリ九年六月ニ至ル一周年ノ補助金ノ  
額ヲ定メテ十七萬三千九百四十四トス○十日物  
理學科程表ヲ定ム乃テ諸藝学生徒ノ物理學ニ  
轉セシモノヲ教授セン為メニ設クルナリ鑛山



東京開成學校  
學ハ化学ニ後事スルヲ要スルモノ僅少ナルヲ  
以テ之ヲ立テス○十一日米國人ロクウエルヲ化  
學教授トス此日諸藝學ノ名称ヲ止メ物理學ト  
レ同諸藝學生徒中物理志願ノモノ四十四人ヲ  
談學ニ入レ又諸藝鑛山兩學生徒ノ新置学科ニ  
後事スルヲ好マサルモノ二十六人ヲ英學轉  
セシム蓋シ文部省ノ命ヲ奉スルナリ○十三日  
再ニ仏國人クロツツヲ聘セラ物理學重學教授ト  
ス○十八日欧米各國ヨリ書籍器械ヲ購入シ又  
教授ヲ招聘セントシ其事ヲ在各国公使及領事  
ハ委頼スルキ方直ニ其書翰ヲ外務省ニ托  
スルノ許シヲ得タリ先是公使領事ハ書翰ヲ送  
ルヤ必ス文部省經由ニ外務省ヲ達セラル成規

ハス故ニ其際後ラニ往復ニ時日ヲ消過シ不便  
ナルヲ以テ直ニ外務省ニ委頼セントシテ上請  
セシメ因レリ○廿一日獨逸人ワグ子ルヲ製作  
學教授トス○廿五日本邸文部省管地内ニ構造  
スル所ノ教授館落成ハ本年四月廿九日經始ス  
ル所ナリ○廿八日一歳間一二回外國教授ヲ宴  
饗スル許シヲ得タリ是レ其授業ニ勉勵スルノ  
勞ヲ慰メレタリ○三十日<sup>日蘭山學</sup>數學教授獨逸人  
ラスト<sup>ラ</sup>ニ職ヲ解ク化學教場設立ナキヲ  
以テ更ニ用ユル処無ケレハナリ○此月本年  
二月議定スル所ノ本校一覽ヲ印刷シ文部直轄  
學校及三府五十七縣ニ頒ツ○十月四日由諸藝  
學物理學化學博物學教授仏國人マイエー



職ヲ解リ是レ其願ニ因ルナリ○本日本國教授  
ヲ近邊館ニ宴饗ス其授業ニ勉勵ナルヲ慰スレ  
リ此日本即文部省管地内ニ構造スル所ノ教  
授館落成ス本年七月廿三日經始スル所ナリ○  
七日學校長畠山茂成中督學ニ任ス學校長元ノ  
如シ○九日製作學教場製品物理學器械六十五種ヲ  
文部省ニ出ス將サ明年米國費拉特豐博覽會  
ニ出サントスルナリ○十一日土木ニ學教授未  
國人ワスリン來港ス○十八日生徒缺員アルヲ  
以テ此日ヨリ翌月十五日ニ至ルヲ限り本科豫  
科生徒百二十人ヲ募集スル布令ヲ出ス○廿八  
日此日ヨリ眾校吏ヲシテ輪番番直セシム先是  
独リ書記ノミ宿直セシヲ以テナリ○此月英文

シ以テ藏書月ヲ造ル○十一月十七日總覽室ヲ  
書籍室ノ北室ニ移ス○十八日生徒卒業證書ノ  
体裁ヲ確定ス○廿日教場手伝ノ名称ヲ改メテ  
助手トス○廿日製作學教場ヲ増築ス其生徒漸  
次増加スルヲ以テナリ○此月前月布令スル所  
ノ募集生徒來校スルモノ數十百人而シテ其試  
驗ヲ請ケ入學ヲ得ルモノ僅カニ三十八人ニ過  
キス是レ專門學校ノ高尙ミレテ其業ノ難キニ  
因リ容易ニ入ル能ハサルヲ以テ入學ヲ得ルモ  
ノ如斯寡ナキナリ●十二月十三日書居課ヲ分  
離シ各一課ニ專掌セシム○此月ハ獨書籍二千  
二百<sup>四</sup>十一卷ヲ國類十三種ヲ東京外國語學校ニ  
附与ス先是該藝鑑山面學ノ處分アリシヲ以テ



仁獨書籍用子此勤キキ因テナリ又本年七月議  
定スル所ノ開成学校一覽洋文ヲ印刷シ文部直  
轄学校及開港場ヲ管スル使縣ニ頒ツ

此年校吏新任十二人轉任七人免職二十五人新  
雇四十九人休雇三十三人ニシテ歳末ノ現今六  
十三人此内督學及東京英語学校ヨリ急勤各一  
人外国教授新雇八人休雇九人死亡一人歳末ノ  
現負十九人生徒入学

退学

歳末

内貸費生

自

賞生

人